

資料 4

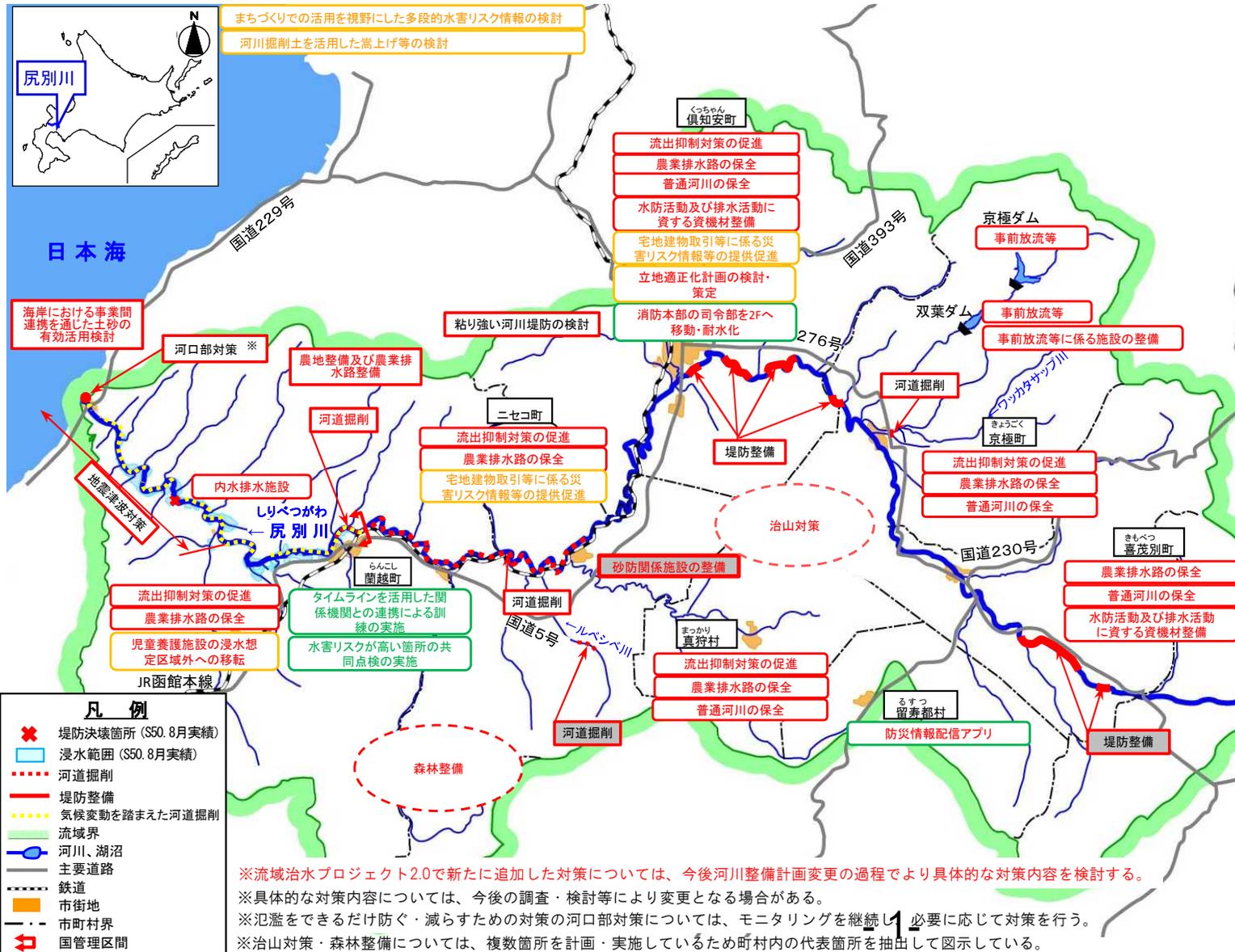
5.尻別川流域治水プロジェクト2.0の 更新について

尻別川流域治水プロジェクト2.0【位置図】

～国際リゾート地“ニセコ”観光圏エリアの魅力と暮らしを守る治水対策の推進～

R7.2更新

- 気候変動の影響を踏まえ、尻別川水系においても、我が国における有数の国際リゾート地であり、清流尻別川が育む水稻や馬鈴薯等の農産物の一大生産地である尻別川流域においてもより一層事前防災対策を進める必要がある。国河川においては、気候変動後（2℃上昇）においても現行河川整備計画での目標（戦後最大洪水である昭和50年8月洪水規模）と同程度の治水安全度を確保し、洪水による災害の発生防止又は軽減を図る。
- 気候変動の影響に伴う降雨量や洪水発生頻度の変化、流域の土地利用の変遷等を踏まえ、河道の安定に配慮した河道断面の増大等、更なる治水対策を推進する。その実施にあたっては、治水事業と調和した豊かな河川環境の保全・創出に向けたグリーンインフラの取組についても引き続き推進する。



■氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・河道掘削、堤防整備、河口部対策、地震津波対策
- ・浸水被害防止対策（内水排水施設、普通河川の保全）
- ・水防活動及び排水活動に資する資機材整備
- ・既存ダム2ダムにおける事前放流等の実施・体制構築（関係者：国、北海道、町、電力会社、土地改良区）
- ・事前放流等に係る施設の整備
- ・砂防関係施設の整備
- ・森林整備・治山対策
- ・流出抑制対策の促進（「田んぼダム」、ため池貯留等）
- ・農業排水路の保全
- ・農地整備及び農業排水路整備
- ・海岸における事業間連携を通じた土砂の有効活用検討
- ・水閘門施設の自動化・遠隔化等

人口・資産が集中する蘭越町市街地等を守る河道掘削（小樽開発建設部、後志総合振興局）

■被害対象を減少させるための対策

- ・河川掘削土を活用した嵩上げ等の検討
- ・まちづくりでの活用を視野にした多段階の水害リスク情報の検討（水害リスクマップ）
- ・宅地建物取引等に係る災害リスク情報の提供促進
- ・児童養護施設の浸水想定区域外への移転
- ・立地適正化計画の検討・策定

■被害の軽減、早期復旧、復興のための対策

- ・公共施設の浸水想定区域外への設置・耐水化
- ・防災教育の実施
- ・タイムラインを活用した関係機関との連携による訓練の実施
- ・水防訓練の実施
- ・水害リスクが高い箇所の共同点検の実施
- ・要配慮者利用施設等における避難確保計画等の作成及び訓練に関する支援・情報共有
- ・水害リスク空白域の解消に向けた取組
- ・防災気象情報の利活用促進
- ・消防本部の司令部を2Fへ移動・耐水化
- ・防災情報発信強化（防災情報配信アプリ）
- ・避難訓練の実施
- ・ハザードマップの多言語化
- ・三次元管内図の整備による河川管理の高度化・効率化

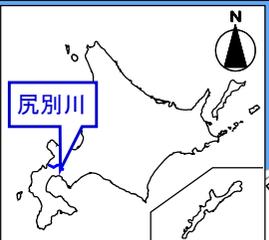
尻別川流域治水プロジェクト2.0【位置図】

～国際リゾート地“ニセコ”観光圏エリアの魅力と暮らしを守る治水対策の推進～

●グリーンインフラの取り組み 『治水事業と調和した豊かな河川環境の保全・創出』

○尻別川は国土交通省が毎年公表している一級河川の水質現況において、水質が最も良好な河川に平成11年度以降で累計21回選出されている日本有数の清流であり、また流域7町村では、尻別川流域の環境保全のための理念や自治体・住民・事業者の責務を示した「町村の河川環境の保全に関する条例（通称「尻別川統一条例」）を制定しており、地域住民の環境意識が高い地域である。

○尻別川水系において、魚類や鳥類等の生息・生育・繁殖の場となっている河畔林や水辺環境の保全に向けて、今後概ね30年間で河川環境に配慮した河道整備を実施するなど、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取組を推進する。



日本海



- 治水対策における多自然川づくり
 - ・生物の多様な生育・生息環境、河川景観の保全
- 魅力ある水辺空間・賑わい創出
 - ・水辺の賑わい空間創出
- 自然環境が有する多様な機能活用の取組み
 - ・地域住民・関係機関における河川環境学習



- 凡 例**
- 河道掘削
 - 堤防整備
 - 気候変動を踏まえた河道掘削
 - 流域界
 - 河川、湖沼
 - 主要道路
 - 鉄道
 - 市街地
 - 市町村界
 - ↔ 国管理区間

- 【全域に係る取組】
- ・河川美化活動
 - ・サケ・サクラマス、アユ、ヤツメウナギ等の生息環境等調査の継続
 - ・魅力的な水辺空間のPRや水辺利活用を促進し、地域振興を図る（かわたびほっかいどう）
 - ・地域のニーズを踏まえた賑わいのある水辺空間創出への連携支援

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

尻別川流域治水プロジェクト2.0【ロードマップ】

～国際リゾート地“ニセコ”観光圏エリアの魅力と暮らしを守る治水対策の推進～

- 尻別川では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、国、北海道、町村が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。
 - 【短期】蘭越町市街地等における重大災害の発生を未然に防ぐため、河道掘削や地震津波対策等を実施。
 - 【中期】中・上流部の浸水被害を未然に防ぐため、河道掘削や地震津波対策等を引き続き実施により、流域全体の治水安全度向上を図る。
 - 【長期】河口部の継続的なモニタリング・必要に応じた閉塞対策、下流部～全川的な河道掘削や地震津波対策等を引き続き実施するとともに、農地・農業排水路整備や、掘削土を活用した嵩上げ等の検討、「田んぼダム」など被害対象を減少させるための対策を推進しつつ、被害軽減・早期復旧・復興のための対策を継続する。
- あわせて、国際的観光地である流域の特徴を踏まえ、氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策（利水ダム等における事前放流等の実施、体制構築）、流域の雨水貯留機能向上の促進等を実施。

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	人口・資産が集中する蘭越町市街地・中流部等を守る河道掘削	小樽開発建設部 後志総合振興局	河道掘削等 豊国地区 → 中流部～上流区間		
	人口・資産が集中する河口部市街地・下流部等を守る河口部対策	小樽開発建設部	河口部～下流区間 河道掘削、護岸整備等		
	津波遡上区間における人命・資産を守る地震津波対策	小樽開発建設部			
	事前放流等に係る施設の整備	小樽開発建設部	中後志地区		
	尻別川支川域（蘭越ニセコ地区）を洪水被害から守る河道掘削及び堤防整備	後志総合振興局			
	水防活動及び排水活動に資する資機材整備	喜茂別町 等	排水ポンプ整備（喜茂別町）		
	市街地を土砂災害から守る砂防関係施設の整備	後志総合振興局	砂防関連施設の整備（後志総合振興局）		
	森林の水源かん養機能の維持・向上のための森林保全対策	北海道森林管理局 後志総合振興局、町村、森林整備センター等			
	山地災害から流域を守る治山対策	北海道森林管理局 後志総合振興局	植栽・間伐などの森林整備を実施		
	河川への急激な雨水流出を抑制する流出抑制対策の促進	後志総合振興局、蘭越町 等	治山施設等の整備		
	農地整備及び農業排水路整備	後志総合振興局 等			
	水閘門施設の自動化・遠隔化等	小樽開発建設部			
被害対象を減少させるための対策	河川掘削土を活用した嵩上げ等の検討	小樽開発建設部			
	まちづくりでの活用を視野にした多段階の水害リスク情報の検討	小樽開発建設部			
	児童養護施設の浸水想定区域外への移転	蘭越町			
	宅地建物取引等に係る災害リスク情報等の提供促進	倶知安町 等	宅地建物取引等に係る災害リスク情報等の提供促進（倶知安町 等）		
	立地適正化計画の検討・策定	倶知安町 等			
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	水防訓練の実施	蘭越町	水防訓練の実施（蘭越町）		
	タイムラインを活用した関係機関との連携による訓練の実施	小樽開発建設部、蘭越町 等			
	防災気象情報の利活用促進	札幌管区気象台			
グリーンインフラの取り組み	生物の生息・生育環境の保全	小樽開発建設部 後志総合振興局			
	賑わいの創出検討・地域活性化	小樽開発建設部			
	「田んぼダム」の貯留機能保全	蘭越町 等			

気候変動を踏まえた
更なる対策を推進

【事業費】

■事業規模
河川対策（197億直轄区間）
（97億直轄区間外）
対策内容 河道掘削、堤防整備、
河口部対策、
地震津波対策 等

※1：国・北海道の河川整備計画等の残事業費を記載

※氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための河口部対策については、モニタリングを継続し、必要に応じて対策を行う。

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。